

平成23年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立宝達高等学校

学校長 釜谷美智子

1 教育目標

生徒一人一人の個性を伸張し、明るく活力のある学校を目指す。
自主自律の精神を培い、21世紀に活躍できる人材を育成する。
創造性を培い、広い視野をもつ人材を育成する。
心の豊かさを涵養し、心身ともに健全な人材を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

生徒の多様な進路希望に応えるため、習熟度別・進路希望別コースを設定し、生徒一人一人にきめ細かな指導を実施している。「分かる授業」、「生徒とのコミュニケーションを重視した授業」をさらに進めるための授業力向上や生徒の能力を最大限に発揮できる進路指導に取り組んでいる。

豊かな人間性や社会性を育み心身ともに健全な生徒を育成するため、基本的生活習慣の確立、規範意識を高める取組、部活動の活性化、教育相談の充実に取り組んでいる。

企業・大学見学やインターンシップ等のキャリア教育の充実に努め、勤労観や職業観の育成に努めている。

地域や小中高連携行事やボランティア活動への参加等を通して、地域とのネットワークづくりが進められ、地域により信頼される学校づくりに努めている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

基礎学力を定着させ、学びに向かう意欲と進路意識の高揚を目指す。

基本的生活習慣を徹底し、規範意識を確立し、部活動を充実させながら、心身ともに健全な生徒を育てる。

望ましい勤労観・職業観を涵養し、希望進路を実現する。

地域から多面的の協力を得て、地域に愛着と誇りを持つ心豊かでたくましい人材を育成する。

(3) 教職員、学校組織等の望ましいあり方

全教職員が意欲的、積極的に研修に励み、教科指導力を向上させ生徒理解を深めながら、自立した人格形成に寄与する。

学校経営計画の下、主任がリーダーシップを発揮し組織体として有機的・機能的に学校組織が運営される。

3 今年度の重点目標

生徒の規範意識を高め、日常活動の中で自主自律心をもって社会人となるための資質を培う。

授業力の向上に常に努め、個々の生徒に応じた確かな学力をつける。また、分かる授業づくりを通じて、学ぶことが確かな未来につながることを自覚させる。

学年毎のキャリア教育を有機的に関連づけ、進路意識をより深めて進路志望の100%達成を目指す。

地域連携による学校行事を通して「魅力ある学校づくり」を推進し、日常活動の中で生徒の生きる力を磨き「地域の即戦力」に育てる。

平成23年度 学校評価計画書

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の規範意識を高め、日常活動の中で自主自律心をもって社会人となるための資質を培う。	遅刻ゼロ運動を進める。特別な事情による以外の遅刻を対象とし、各学年で遅刻ゼロ日数をカウントする。	生徒指導課 学年	遅刻度数漸減の努力を続ける。 平成22年度遅刻ゼロ日割合(%) 前期 後期 通年 1学年 17% 24% 21% 2学年 25% 50% 39% 3学年 69% 67% 68%	【成果指標】遅刻常習・理由曖昧な欠席を減らす指導ができたか。	遅刻ゼロ日数の指標 1学年 50%(97日) 2学年 60%(116日) 3学年 70%(118日) A: 全学年とも目標を達成した B: 全学年のゼロ日数平均が60%以上 C: 全学年のゼロ日数平均が60%未満 D: 全学年のゼロ日数平均が50未満	C, Dの場合、指導のあり方を検討する。	毎日調査 中間・年度末に集計 【評価対象】 生徒
	合同HR(全校放送や集会)を随時開いて適切なことば遣いやマナーの向上を呼びかける。全校規模で行いリーダーシップの育成を図る。	生徒指導課 学年	平成22年度は、必要に応じて随時生徒集会を開き、生徒指導課担当を中心にマナー啓発の指導を行った。規範意識の向上に一定の効果が認められた。	【努力指標】大集団の中で健全な態度や規範意識の向上が図れたか。	合同HR(全校放送や集会)で規範意識やリーダーシップが育まれたと感じる生徒が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C, Dの場合、取組について検討する。	中間・年度末 【評価対象】 生徒
	部活動の全員加入を推進し、曖昧な理由で活動が途切れたり不参加になることを防ぐ。	生徒会課 学年	加入率は、年度当初の調査で平成22年度86%と比較的高いが、後期には部活動に消極的な生徒がいる。(H22 意欲的な生徒72.4%)	【努力目標】部活動の継続が充実した高校生活を支えることを自覚させる。	部活動に積極的に取り組んでいる生徒は A: 70%以上 B: 65%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C, Dの場合、指導のあり方を検討する。	中間・年度末 【評価対象】 生徒
	生活習慣調査を通して生徒自らが生活習慣の改善に取り組む態度を育てる。	厚生課 学年	平成22年度は3回(5月、9月上旬、下旬)調査を行い、結果を指導に活用した。平成23年度は自主自律の態度をもっと育てたい。	【努力指標】生活調査から生徒自らが課題を自覚し是正できるか。	適切な生活習慣を自律的に守る生徒が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C, Dの場合、指導のあり方を検討する。	長期休業後 調査中間・ 年度末集計 【評価対象】 生徒
	スクールカウンセラーの活用をさらに進め、教員研修を含めた相談体制の向上を図る。	厚生課 学年	平成22年度は生徒への具体的な支援方法を学ぶことができた。(良い65% やや良い30%) 平成23年度はより実践的な心の支援を推進していく。	【成果指標】より実践的な心の支援を推進できたか。	研修により実践的な支援ができた教員が A: 50%以上 B: 40%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	C, Dの場合、研修内容を検討する。	中間・年度末 【評価対象】 教員

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 授業力の向上に常に努め、個々の生徒に応じた確かな学力をつける。また、分かる授業づくりを通じて、学ぶことが確かな未来につながることを自覚させる。	基礎基本の定着のために課題プリントや「学び直し」教材を作成し、効果的に活用する。	教科 教務課	平成 22 年度は国語、英語、数学でそれぞれ「学び直し」用課題を作成して授業の始めに取り組ませ、基礎力の定着を図った。高校の内容に発展させることに課題がある。	【成果指標】 基礎基本の定着のための教材を作成し活用したか。	基礎基本の定着のための教材を効果的に作成し活用した当該担当教科の教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、取組について検討する。	中間・年度末 【評価対象】 教員
	学習時間を示した放課後・週末課題等を学習帳の形式で取り組み、着実な学習習慣を身に付けさせる。	教科 教務課 学年	家庭学習時間は、個人差はあるが平均 45 分と依然少ない。教科毎に必要な時間を明示して学習課題を与え、学習帳やファイルで家庭学習を目に見える形で蓄積する必要がある。	【成果指標】 平日 60 分以上、週末 120 分以上家庭学習をしているか。	家庭学習時間が平日 60 分以上、週末 120 分以上の生徒が A：40%以上 B：30%以上 C：20%以上 D：20%未満	C、Dの場合、指導の方針を検討する。	毎日・毎週末調査 中間・年度末集計 【評価対象】 生徒
	授業で「聞く」「話す」場面や「考え」「発表する」機会を設け、言語活用能力を高める。	教科 教務課	ワークシートや視覚教材を工夫し、グループ活動や発表の機会を増やすよう努めている(H22 意欲を高めた生徒は 78.3%)。学習意欲の向上を知識や理解の向上に結びつける必要がある。	【満足度指標】 授業で質問や発表するなど十分に活動する機会が与えられたか。	授業で生徒が活動する機会は授業への意欲を A：高めた B：ある程度高めた C：あまり変わらない D：高めたかわからない	C、Dの場合、指導法の改善に努める。	中間・年度末 【評価対象】 生徒
	習熟度別少人数授業の利点を活かし、学力の定着と学習意欲の向上を図る。	教科 教務課	応用クラスでは学習意欲の向上や学力向上につながっているが、基礎クラスでは学力向上の実を挙げるには指導法の工夫がさらに必要である。	【努力指標】 習熟度別少人数授業のあり方を研究し効果を挙げる。	習熟度別少人数授業について私は A：研修内容を積極的に実践した B：研修を受け、部分的に実践した C：研修を受けたが実践はしなかった D：研修も実践もしなかった	C、Dの場合、研修を生かす指導実践を促進する。	中間・年度末 【評価対象】 教員
	研修受講や校内研究授業・互見授業を計画的に実施して、ねらいが明確な授業をする力量を高める。	教科 教務課	互見授業や研究授業を通して授業改善を一定程度図ることができた(H22 A + B 80%)。授業のねらいの明確化や授業改善がさらに求められる。	【努力指標】 ねらいの明確な授業を創っているか。	研修を活かしねらいの明確な授業を私は A：積極的に実践し、授業評価もよい B：実践に努め、授業評価もよい C：実践に努めたが、授業評価は不明 D：実践していない	C、Dの場合、授業改善策の実践に努める。	中間・年度末 【評価対象】 教員

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 学年毎のキャリア教育を有機的に関連づけ、進路意識をより深めて進路志望の100%達成を目指す。	ようこそ先輩、企業・大学見学、インターンシップ等の進路学習を有機的に関連づけキャリア意識を早期に養う。	進路指導課 学年	全学年対象の「ようこそ先輩」、1学年の企業・大学見学、2学年のインターンシップ等が進路意識の高揚につながっているが、事前事後の指導をさらに充実させる必要がある。(A:32.8% B:42.2%)	【満足度指標】 キャリア学習を通して進路意識が深まったか。	学年毎のキャリア学習が進路選択に A：大いに役立っている B：いくらか役立っている C：あまり役立っていない D：わからない	C, Dの場合、取組について検討する。	中間・年度末 【評価対象】 生徒
	教員が企業を訪問して社主から経営や就労の現場について学び、より実践的な進路指導力をつける。	進路指導課 学年	就職支援員による企業情報が教員の進路指導に役立っている。今後は、教員自身が経営トップから学ぶなど、より一層社会や就職環境について学ぶ機会をもつことが望ましい。	【成果指標】 企業研究によってより実践的な進路指導力がついたか。	企業経営者から学ぶことによって社会の状況や就労環境がわかり進路指導に A：大いに役立った B：役立った C：あまり役立たない D：わからない	C, Dの場合、取組について検討する。	事後調査 中間・年度末集計 【評価対象】 教員
	進路実現を目指して個人面談をきめ細かく行う。「面接票」を作成して個々の変容を明確にし、情報の共有を図る。	進路指導課 学年	平成22年度、3年生は83%が面談で進路指針を得られたとしているが、全校では63%に留まる。学年毎の経過を記録する「面接票」の導入により、進路指導をより充実させたい。	【満足度指標】 面接票により進路意識と進路学習が深まったか。	「面接票」を活用することにより進路意識と進路学習が A：大いに深まった B：深まった C：あまり変わらない D：わからない	C, Dの場合、面談のあり方を検討する。	中間・年度末 【評価対象】 教員 生徒
	中・長期的な学習課題を与え、対外模試等を効果的に活用する。	進路指導課 教科 学年	平成22年度は小論文指導をきめ細かく実施し、国公立大学を始めとする進路実現に役立ったと言える(80%)。さらに組織的に指導力を向上させたい。	【努力指標】 中・長期的な学習課題や個別指導に取り組んだか。	個別の学習課題や模試の活用に A：しっかり取り組んだ B：まずまず取り組んだ C：あまり取り組まなかった D：取り組まなかった	C, Dの場合、指導方法の見直しを行う。	中間・年度末 【評価対象】 教員 生徒
	きめ細かい進路指導により進路実現を100%達成する。	進路指導課	教科指導、学年毎の基礎学力養成への努力で進路実現100%を達成することができた。景気動向の困難が見込まれる中、進学就職とも100%を目指したい。	【成果指標】 希望進路が達成されたか。	希望する進路の達成率が A：100% B：96% C：93% D：93%未満	Dの場合、指導と支援のあり方を検討する。	年度末集計 【評価対象】 生徒

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 地域連携による学校行事等を通して「魅力ある学校づくり」を推進し、日常活動の中で生徒の生きる力を磨き「地域の即戦力」に育てる。	魅力ある学校づくりの一環として「高校生コンサル活動」や「宝達山クリーン登山」等の行事を実施し生徒のふるさと意識を育てる。	総務課 学年	ボランティア活動等を通して社会参加の意識が向上したとは言い切れない。(A + B=55.7%) 「ふるさと振興事業」等を発展させた地域連携の取組により生徒を地域の即戦力として育てたい。	【成果指標】 地域連携事業が生徒の地域貢献意識を高めたか。	地域連携を目指した学校行事により地域への関心と誇りが A：大いに高まった B：高まった C：あまり高まらない D：わからない	C、Dの場合、取組について検討する。	中間・年度末 【評価対象】 生徒
	宝高だより、学年だより等の発行やHPの更新を通して学校情報をきめ細かく発信する。	総務課 学年	平成 22 年度宝高だよりは 5 回発行、HP 更新は 32 回であった。定期的に発行・更新するのは苦労であるが、平成 23 年度は回数、内容ともさらに充実させたい。	【成果指標】 充実した学校情報がきめ細かく発信されたか。	紙媒体だよりの年間発行回数とHP更新が A：5 回以上・30 回以上 B：4 回以上・30 回未満 C：いずれかが上記を下回る D：いずれも上記を下回る	C、Dの場合、取組について検討する。	年度末集計 【評価対象】 教員
	学校からの通信物を保護者に確実に届け、回収を果たすよう生徒への指導を徹底する。	総務課 学年	生徒を経由する学校情報の伝達、回答の回収はなかなか徹底しない。平成 22 年度は「封筒制」にして回収率が多少高まった。引き続き指導の徹底と保護者の協力が望まれる。	【努力指標】 学校情報が保護者にきちんと届けられたか。	学校情報を保護者に届けた生徒が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、指導のあり方を検討する。	随時調査 中間・年度末集計 【評価対象】 生徒 保護者
	学校図書の講読のほか、校内で新聞を講読し時事や論説等の活字情報に親しむ活動を進める。	生徒会課 教科	年 5 週間の朝読書により 70 %の生徒が読書習慣が身についたと答えている。平成 23 年度は新聞購読も推進し、活字情報を読み取る能力を高めたい。	【努力指標】 新聞を読んで知識や考える力が深まったか。	家庭や学校で新聞を購読して見聞が A：大いに広まった B：広まった C：少し広まった D：読まなかった	C、Dの場合、新たな取組を検討する。	活動後調査 中間・年度末集計 【評価対象】 生徒
	美化コンクールを継続実施し、清掃の大切さや安全な生活への意識を高める。	厚生課 学年	教室が整理整頓されていると感じる生徒は半分強(H22 54.7%)であり、美化意識をもっと高めなければならない。	【努力指標】 校内の清掃に積極的に取り組んだか。	校内の清掃美化に A：大いに努めた B：努めた C：あまり努めなかった D：努めなかった	C、Dの場合、新たな取組を検討する。	随時調査 中間・年度末集計 【評価対象】 生徒